９　図書館および図書・電子媒体等

（１）図書、図書館の整備

１）　附属図書館（全体）

本学附属図書館(大学全体)の図書、学術雑誌、視聴覚資料、その他教育研究上必要な資料の体系的整備と、その量的整備の適切性の現状について把握する場合、総合福祉学部および大学院総合福祉研究科の置かれている千葉キャンパス（千葉県千葉市）の「千葉図書館」と、国際コミュニケーション学部および大学院国際経営・文化研究科の置かれているみずほ台キャンパス（埼玉県入間郡三芳町）の「みずほ台図書館」を合算したものとなる。

しかし、両キャンパスは、直線距離にして約 70ｋｍ(公共交通期間利用の所要時間約 2 時間 30 分)と地理的に相当離れた位置にあり、この物理的な距離が両館の相互補完、特に相互利用のための物流上の重大な障害となっている。このため、この環境を度外視して両館の数値を単純に合算したものによって、量的整備の適切性等を見るということは、必ずしも適切なものとはいえない。

また、両キャンパスで展開されている教育研究の専門性の相違から、蔵書についてもそれぞれ専門性を持つこととなり、図書館の運営もそれぞれ独立的に成らざるを得ない状況にある。

とはいえ、大学附属図書館としての現状を把握することは、全体としての目標を持つことや、他大学との大学間比較などの側面においてそれなりの意義を有するであろうし、また、図書館諸機能の分担、重点的な施設整備などを検討する際の重要なデータになると考えられる。

このようなことから、以下の附属図書館(全体)としての記述部分は、千葉図書館、みずほ台図書館の両館に共通する主たる項目についての全体を記述した。ただし、データについては便宜上両館分を内訳として本項で記載したが、ここに記載以外の両館の現況の詳細については、千葉図書館、みずほ台図書館の項で詳述することとした。

【現状の説明】

○　職員数　(図書・表 1)　　注、(図書・表 1～図書・表 8 は平成 17 年度のデータ)

区　　分	専任職員数	非専任職員数	合計	図書館職員一人当りの学生数
千葉図書館	5	1	6	519
みずほ台図書館	4	1	5	440
附属図書館全体	9	2	11	482

○　施設　(図書・表 2)

区　　分	面積（㎡）	学生一人当たり面積（㎡）	閲覧座席（席）	学生一人当たり閲覧座席数（席）	書架収容力（冊）
千葉図書館	2,029	0.65	294	0.09	247,750
みずほ台図書館	2,813	1.33	307	0.14	166,000
附属図書館全体	4,842	0.91	601	0.11	413,750

○　蔵書冊数　(図書・表 3)

区　　分	図書冊数				学生一人当り蔵書冊数	雑誌種数			学生一人当り雑誌種数
	和	洋	点字	小計		和	洋	小計	
千葉図書館	163,482	44,569	59	208,110	66.8	2,838	558	3,396	1.09
みずほ台図書館	107,252	31,653	0	138,905	63.5	766	218	984	0.45
附属図書館全体	270,734	76,222	59	347,015	65.5	3,604	776	4,290	0.80

○　受け入れ資料数　(図書・表 4)

区　　分	図書冊数			学生一人当り受入図書冊数	雑誌種数			学生一人当り受入雑誌種数
	和	洋	小計		和	洋	小計	
千葉図書館	6,452	1,012	7,464	2.4	983	188	1,171	0.38
みずほ台図書館	5,392	2,238	7,630	3.5	551	171	722	0.33
附属図書館全体	11,844	3,250	15,094	2.8	1,534	359	1,893	0.36

○　資料費　(図書・表 5)

区　　分	図書費	雑誌費	その他	合計	学生１人当り資料費（円）
千葉図書館	29,488	21,632	8,825	59,945	19,250
みずほ台図書館	21,499	11,786	7,881	41,166	18,832
附属図書館全体	50,987	33,418	16,706	101,111	19,077

○　開館状況　(図書・表 6)

区　　分	開館日数	時間外 開館時間数	総入館者数	一日平均 入館者数	学生一人当り 年間入館回数
千葉図書館	264		117,436	445	37.7
みずほ台図書館	290		103,978	359	47.3
附属図書館全体			221,414	804	41.7

○　館外貸出　(図書・表 7)　　(冊数)

区　　分	学生	教職員	学外者	合計	学生１人当り 貸出冊数
千葉図書館	13,149	894	224	14,267	4.22
みずほ台図書館	8,700	1,306	297	10,303	3.96
附属図書館全体	21,849	2,200	521	24,570	4.11

○　相互協力　(図書・表 8)

区　　分	相互貸借（冊）			文献複写(件)		
	貸出	借受	計	受付	依頼	計
千葉図書館	6	45	51	246	614	860
みずほ台図書館	4	8	12	35	74	109
附属図書館全体	10	63	73	281	688	969

附属図書館全体の運営は、千葉図書館長、千葉図書館運営委員 2 名及びみずほ台図書館長、みずほ台図書館運営委員 2 名で構成する附属図書館運営委員会で行っている。

その他の詳細については、千葉図書館、みずほ台図書館の項で詳述する。

【点検・評価および長所と問題点】

附属図書館(全体)にかかる今回の点検・評価にあたっては、文部科学省が毎年実施する「大学図書館実態調査」における最新調査結果・平成 15 年度調査（以下「平成 15 年度調査」という）での、私立大学における同等ランク（私大 C 区分：2～4 学部）の小規模大学全体の平均的なデータと、附属図書館(全体)としての比較によって、自館のいわば位置価を確認するとともに、それによって長所と問題点を把握することとした。

なお、ここでは附属図書館としての共通する主たる項目について、全体として記述し、千葉図書館、みずほ台図書館の個々の点検・評価については、それぞれの項で詳述することとする。

○　職員数　(図書・表 9)　注、(図書・表 9～図書・表 16 は平成 15 年度のデータ)

区　　分	専任職員数	非専任職員数	合計	図書館職員一人当りの学生数
千葉図書館	5	1	6	527
みずほ台図書館	4	0	4	576
私大Ｄ区分平均	4	3	7	213
附属図書館全体	9	1	10	547
私大Ｃ区分平均	8	6	14	225

私大Ｃ区分平均との比較では、専任職員数は平均であるが非専任職員の数は大きく下回る。したがって職員数合計においても平均を下回っている。また、図書館職員１人当りの学生数は、私大Ｃ区分平均の２倍を越す。しかし、大学基準協会が決定した大学図書館基準の第３条１項では、「大学図書館には、その使命の遂行と機能の発揮に必要かつ十分な職員を適正に配置しなければならない。」とあり、特に本学における図書館職員１人当たりの学生数の多さを鑑みるに、今後、業務の合理化や職員の能力の向上を一層図ってゆくこととしてもなお、職員数の改善がなされるべきだと思われる。

○　施設　(図書・表 10)

区　　分	面積（㎡）	学生一人当たり面積（㎡）	閲覧座席（席）	学生一人当たり閲覧座席数（席）	書架収容力（冊）
千葉図書館	2,029	0.64	294	0.09	247,750
みずほ台図書館	2,813	1.22	310	0.13	134,000
私大Ｄ区分平均	1,934	1.29	205	0.13	147,299
附属図書館全体	4,842	0.89	604	0.11	381,750
私大Ｃ区分平均	3,956	1.10	420	0.11	309,685

附属図書館全体の面積や座席数で見ると、おおよそ適正であるといえる。

しかしながら、学生一人当たりで比較すると、私大Ｃ区分平均の 80%に留まっている。

また、千葉図書館の施設が 4 箇所に分かれていて使いにくいという現状にある。

平成１7 年度に行われた第 4 回学生生活実態調査の結果でも、千葉図書館の施設について、不満が寄せられている。

これらの問題を解決するため、千葉図書館新棟の建設又は増築等の検討が必要であると思われる。

○　蔵書冊数　(図書・表 11)

区　　分	図書冊数				学生一人当り蔵書冊数	雑誌種数			学生一人当り雑誌種数
	和	洋	点字	小計		和	洋	小計	
千葉図書館	159,796	42,730	59	202,585	64.0	2,803	556	3,359	1.06
みずほ台図書館	99,608	30,557	0	130,165	56.5	610	203	813	0.35
私大Ｄ区分平均	82,883	32,550	25	115,458	77.3	857	351	1,208	0.80
附属図書館全体	259,404	73,287	59	332,750	60.9	3,413	759	4,172	0.76
私大Ｃ区分平均	202,099	71,209	32	273,340	74.6	2,139	744	2,883	0.79

附属図書館全体としての図書の蔵書冊数及び雑誌の種類数は、私大Ｃ区分平均を上回っているが、これは特に千葉図書館の数値がもたらしている結果である。しかし、本学は学生数が多いため学生一人当たりで比較すると平均を下回っている。

また、平成１７年度に行われた第４回学生生活実態調査の結果でも、図書館の蔵書冊数、図書の種類に関する不満が多く寄せられている。

○　受け入れ資料数　(図書・表 12)

区　　分	図書冊数			学生一人当り受入図書冊数	雑誌種数			学生一人当り受入雑誌種数
	和	洋	小計		和	洋	小計	
千葉図書館	6,375	1,211	7,586	2.4	1,213	232	1,445	0.46
みずほ台図書館	6,661	831	7,492	3.3	493	162	655	0.28
私大Ｄ区分平均	3,184	726	3,910	2.6	462	139	601	0.40
附属図書館全体	13,036	2,042	15,078	2.8	1,706	394	2,100	0.38
私大Ｃ区分平均	7,035	1,520	8,555	2.3	1,177	353	1,530	0.44

附属図書館全体としての図書の受け入れ数は私大Ｃ区分平均を上回っているが、千葉図書館における学生一人当たり受入数は平均を下回っている。

また、雑誌の種類数も附属図書館全体としては私大Ｃ区分平均を上回っているが、学生一人当たりで比較すると私大Ｃ区分平均を下回っている。ただ、種類数については単純な学生一人当たりを算出・比較するには疑問を感ずるものがある。

なお、雑誌の種類数については、電子ジャーナル化の拡大による豊富な種類の情報提供ということが最近の傾向であり、この点を特に配慮すべきものと考える。

○　資料費　(図書・表 13)

区　　分	図書費	雑誌費	その他	合計	学生１人当り資料費（円）
千葉図書館	26, 922	19, 638	5, 862	52, 422	16, 573
みずほ台図書館	20, 245	8, 475	4, 041	32, 761	14, 231
私大Ｄ区分平均	15, 744	14, 427	3, 200	33, 371	22, 337
附属図書館全体	50, 167	28, 113	9, 903	88, 183	16, 136
私大Ｃ区分平均	36, 621	29, 116	7, 475	73, 212	20, 473

附属図書館全体としての資料費の総額は、私大Ｃ区分平均を上回っているが、雑誌費が平均値より低い。図書費、雑誌費等のバランス調整が必要と思われる。ただ、学生一人当たりで比較すると私大Ｃ区分平均の 78%と下回っているので、全体的に増額の努力が望まれる。図書館が、学費に対するサービスの直接の還元につながっていることを考えると、私大Ｃ区分平均の近いところにいるべきと思われる。

○　開館状況　(図書・表 14)

区　　分	開館日数	時間外開館時間数	総入館者数	一日平均入館者数	学生一人当り年間入館回数
千葉図書館	263	906	141, 396	538	44. 7
みずほ台図書館	277	958	106, 656	385	46. 3
私大Ｄ区分平均	250	588			
附属図書館全体			248, 052	923	45. 4
私大Ｃ区分平均	260	562			

開館日数、時間外開館時間数とも私大Ｃ区分平均を上回っており、開館状況に関しては十分なサービスが提供されているといえる。

○　館外貸出　(図書・表 15)

区　　分	学生	教職員	学外者	合計	学生１人当り貸出冊数
千葉図書館	16, 825	1, 083	205	18, 113	5. 32
みずほ台図書館	11, 545	1, 370	295	13, 210	5. 02
私大Ｄ区分平均	10, 305	1, 867	592	12, 764	6. 89
附属図書館全体	28, 370	2, 453	500	31, 323	5. 19
私大Ｃ区分平均	17, 604	3, 031	658	21, 293	4. 92

館外貸出数は、私大Ｃ区分平均を上回っている。

しかし、本表の貸出数合計 31,323 冊は平成 15 年度の数値であるが、表 7 が示すように平成 17 年度の館外貸出数合計は 24,570 冊であり、年々貸出冊数が減少の傾向にあり、資料を充実させＰＲに努める等、貸出冊数増の施策を考える必要がある。

○　相互協力　(図書・表 16)

区　　分	相互貸借（冊）			文献複写(件)		
	貸出	借受	計	受付	依頼	計
千葉図書館	49	52	101	318	572	890
みずほ台図書館	11	42	53	22	65	87
私大Ｄ区分平均	22	27	49	590	476	1, 066
附属図書館全体	60	94	154	340	637	977
私大Ｃ区分平均	64	91	155	677	754	1, 431

相互貸借、文献複写ともに私大Ｃ区分平均を下回っている。大学図書館は、その機能を全うするにあたり、広く学外との連携を取ることが肝要である。

自館の所蔵資料が少ないと必然的に他大学からの依頼も少なくなることが挙げられるが、他大学への依頼については、図書館での利用指導や授業等を通じて、広く文献を使用して学習を進めるように、学生指導を行う必要があると思われる。

【将来の改善・改革に向けた方策】

千葉図書館の狭隘と書庫の分散(4 箇所)による使いにくさという現状について、関係者の理解を得て、具体的な改善の検討を開始する必要がある。

蔵書冊数について、学生 1 人当たりの蔵書冊数を私大Ｃ区分平均まで増やして、学生生活実態調査による学生の要望に応えるよう努力する必要がある。

外国書の購読については、外国書の購読料の高騰や電子ジャーナルの急速な普及に対応して、限られた予算の中で見直しを図って行く必要がある。

２）千葉図書館

【現状の説明】

職員数、施設、蔵書冊数、受け入れ資料数、資料費、開館状況、館外貸出、相互協力については、(図書・表 1)から(図書・表 8)に記載した。

千葉図書館における開館時間は、授業期間中の月曜日から金曜日は午前 9 時から午後 8 時 40 分まで、同じく土曜日にあっては午前 9 時から午後 4 時 30 分までである。なお、授業期間外の開館時間は、月曜日から金曜日は午前 9 時から午後 4 時 30 分まで、その期間のうち夏・冬期休暇中の土曜日は午前 9 時から午後 0 時 30 分まで、それ以外の土曜日は閉館となっている。

蔵書検索用の設備としては、千葉図書館専用の OPAC（Online Public Access Catalog）端末が 8 台あり、インターネット検索専用として 8 台のパソコンを設置している。

図書は原則として全開架方式であり、館内での自由閲覧を可能にしている。また、館外貸出サービスにおける開館時間と資料貸出の諸条件は、利用者の利便性を配慮したものになっている。

図書館の公開については、中学生以上の者であって生徒証、学生証、運転免許証、健康保険証、その他公的機関が発行した身分証明書を持参した者には、授業期間中の学部学生に準ずる利用を認めている。

図書館の資料閲覧および貸出は、開館時間内は何時でも可能である。レファレンス・サービスは、カウンターを当番で担当している職員 1 名が、貸出・返却等の作業の傍らサービスを行っている。

資料の貸出点数は専任教員 30 点、専任職員・非常勤教員 10 点であり、学生は、授業期間中が、学部学生の 1 ～3 年次生 3 点、4 年次生 5 点、大学院生 7 点、授業期間外が、学部学生の 1 ～3 年次生 5 点、4 年次生 7 点、大学院生 10 点である。

資料の貸出期間は、専任教員 180 日、専任職員・非常勤教員 30 日であり、学生は、授業期間中が､学部学生の 1 ～3 年次生 14 日､4 年次生 28 日､大学院生 28 日となっている。授業期間外では学部学生、大学院生とも休暇終了後 2 週間以内までである。

図書の利用状況は、学生（聴講生を含む）の総貸出冊数は学部学生が 11,905 冊、大学院生が 1,159 冊であり、学生 1 人平均貸出冊数は学部学生が 3.9 冊、大学院生が 13.6 冊である。貸し出しが一番多い分野は社会科学分野の 7,278 冊（55.4%）で､次に哲学分野の 2,029 冊（6.5%）である。レファレンス受付件数は 1,178 件である。

図書館利用案内は、図書館概要（利用案内）や学生便覧を発行するとともに、利用指導に関しては、毎学年前半において、 1 年生に対する入門的図書館利用法の指導を「学問の基礎」ゼミ単位で、また、2 年生以上の学生を対象に、電子化された文献の検索法を中心とする指導を専門演習のゼミ単位で、それぞれ 90 分間のプログラムで実施している。いずれもビデオ等を利用し、また実習を重視したプログラムとなっている。

学生からの直接の希望による図書の購入についても配慮しており、ここ数年約 360 件であったが、平成１7 年度は 233 件に減少している。

また、車椅子のままアプローチし得るカウンターやトイレを整備するなど、障害をもつ学生への適切なサービスを旨として、整備・運営に当たっている。

【点検・評価および長所と問題点】

千葉図書館にかかる今回の点検・評価に当たっても、平成 15 年度調査における私立大学における同等ランク（D 区分：単科大学）の単科大学全体の平均と、千葉図書館とを比較することによって、自館のいわば位置価を確認するとともに、それによって長所と問題点を把握することとした。(データは(図書・表 9)から(図書・表 16)を参照)

○　職員数　(図書・表 9)

私大 D 区分平均との比較では、専任職員数は平均であるが非専任職員の数は大きく下回る。したがって職員数合計においても平均を下回っている。また、図書館職員 1 人当りの学生数は、単科私大平均の 2 倍を越している。今後、業務の合理化や職員の能力の向上を一層図ってゆくこととしても、なお職員数の改善がなされるべきと思われる。

○　施　設　(図書・表 10)

千葉図書館面積、座席数を見ると、おおよそ適正な数値であるといえる。しかしながら、学生一人当たりで比較すると私大 D 区分平均には遥かに及んでいない。

また、図書館スペースが図書館・1 号館・2 号館・5 号館の 4 箇所に分かれていて使いにくい上、図書館自体もその一部は同一の建物内にあった学生ホールを改装してそのスペースに組み込んだという経過があるため、閲覧室間の利用動線が非常に複雑かつ使いにくい。平成 14 年度 4 月に監視カメラも設置したが、安全管理の面でも不安が残るところである。

なお、平成１7 年度に行われた第 4 回学生生活実態調査の結果でも、千葉図書館の座席数・設備について極めて不満が大きく、これらの問題を解決するため、新図書館棟の建設又は図書館棟の増築等の検討が緊急の課題と思われる。

○　蔵書冊数　(図書・表 11)

千葉図書館の蔵書数は、私大 D 区分平均の平均値を超えている。しかしながら、学生一人当たり図書の冊数で比較すると私大 D 区分平均の平均値に及んでいない。

また、平成１7 年度に行われた第 4 回学生生活実態調査の結果でも、千葉図書館の蔵書冊数、図書の種類に関する不満が多く寄せられている。このため、当面、私大 D 区分平均値を目標に充実を図る必要がある。

雑誌種類数については、特に和雑誌について充実した所蔵を持っている。

○　受け入れ資料数　(図書・表 12)

千葉図書館の受け入れ図書冊数は、私大 D 区分平均に比較して多いように見えるが、学生数が多いため学生一人当たりの受入数では平均値を下回っている。

また、外国雑誌の受入数は、私大 D 区分平均を超えているが、外国雑誌購読料の高騰に難儀しており、更に電子ジャーナルの購読希望の予算措置に苦労しており、雑誌費の在り方の検討が課題となっている。

○　資料費　(図書・表 13)

千葉図書館の資料費は、額としては私大 D 区分平均を超えている。しかしながら、学生一人当たりで比較すると私大 D 区分平均の 74%であり、平均値に及んでいない。

学生生活実態調査による、図書館に対する学生の不満解消のためにも、資料費の増額の努力が望まれる。

○　開館状況　(図書・表 14)

開館日数、時間外開館時間数とも私大 D 区分平均を上回っており、開館状況に関しては十分なサービスが提供されているといえる。

○　館外貸出　(図書・表 15)

学生への貸出冊数は、私大 D 区分平均の 1.6 倍にあるが、学生一人当たりで比較すると私大 D 区分平均に達していない。いかに学生数が多いかが分かる。

なお、附属図書館全体の項でも述べたが、年々貸出冊数が減少の傾向にあり、資料を充実させＰＲに努める等、貸出冊数増の施策を考える必要がある。

○　相互協力　(図書・表 16)

相互貸借は、私大 D 区分平均を上回っておりまずまずであるが、文献複写の受付件数だけが私大 D 区分平均の 54%と下回っており、他館依存型のように見える。

これは千葉図書館の蔵書に原因があるのか、その変の原因を突き詰め、バランスの良い他館との連携を図ることが肝要と思われる。

教育研究における分野との関連での、分野別蔵書構成をみると、千葉キャンパスにおける専門分野である、心理学、社会学、社会福祉等を含む社会科学、教育および医学、薬学の蔵書が全蔵書の 7 割弱を占めている。

収書方針としては、学部学科課程および大学院研究科専攻の目的に適合する専門図書資料を中心に、教員の希望による学生指導図書、選書委員会選書図書、大部図書および参考図書等、学部学生・大学院生による学生希望図書、図書館職員による蔵書調整図書および参考図書等に図書購入費の費目を分けて、バランスを保ちつつ収書することとしている。

授業期間中の開館については、授業との関連における必要をほぼ満たしている。平均年間開館日数や時間外開館総時間数等は私大 D 区分平均を上回り、満足すべき状態にある。

図書は原則として全開架方式であり、館内での自由閲覧を可能にしている。開館時間と資料貸出の諸条件は、利用者の利便性を配慮したものになっている。

平成 17 年度における参考業務（レファレンス・サービス）については、実施件数 1,180 件であり、例年の件数で推移している。

【将来の改善・改革に向けた方策】

先ず、施設の狭隘と書庫の分散(4 箇所)による使いにくさという現状について、関係者の理解を得て、具体的な改善の検討を開始する必要がある

蔵書冊数について、学生 1 人当たりの蔵書冊数を私大 D 区分平均まで増やして、少しでも学生の要望を満たせるよう努力する必要がある。

電子ジャーナルの購読について、全大学が急加速度的増加傾向にあり、本学でも例に漏れず購読希望が多くなっている。方や、冊子体の外国雑誌購読料高騰に難儀しており、雑誌費全体の在り方の検討が必要となっている。

入館者、貸出冊数について、本学に限らず全大学の傾向であるが減少をつづけている。この背景を突き詰め、それに応じた対応を講ずる必要がある。

３）みずほ台図書館

【現状の説明】

職員数、施設、蔵書冊数、受け入れ資料数、資料費、開館状況、館外貸出、相互協力については、(図書・表 1)から(図書・表 8)に記載した。

みずほ台図書館における図書の収集は、図書館運営委員会によって決定された収書方針に基づいて行われている。平成 17 年度は、10 コース制に対応した資料を中心に収書した。

視聴覚閲覧室には、ビデオテープ視聴用 3 セット、ビデオテープ・カセットテープ視聴用 2 セット、ビデオテープ・DVD 視聴用 12 セット、DVD 視聴用 5 セット、ビデオテープ・DVD・CD 視聴用 8 セットを設置している。

みずほ館の総合的な運営を図るために、図書館情報システムを構築し運用している。みずほ台館の蔵書検索用に、1 階 1 台、2 階 6 台、3 階 1 台の専用端末があり、インターネット検索用としては 1 階 10 台のパソコンを設置している。

入館者数の把握と図書館資料の紛失防止のため、入退館システムを導入している。

平成 17 年度の開館日数は 291 日、入館者総数は 103,724 名である。開館時間は、開講期間中は月曜日～土曜日 9：00～21：00 となっている。それ以外の期間は月曜日～金曜日 9：00～16：30、土曜日 9：00～12：30 となっている。図書館の資料閲覧および貸出は、開館時間内は何時でも可能である。レファレンス・サービスは職員 1 名が専用コーナーに居り、月曜日～金曜日 9：00～16：30、土曜日 9：00～12：30 の時間帯でサービスを行っている。

資料の貸出点数は教員 30 点、職員 20 点であり、学生は開講期間中が学部学生 5 点・大学院生 20 点、長期休暇中が学部学生 20 点・大学院生 30 点である。資料の貸出期間は、教員が図書 90 日、雑誌のバックナンバー7 日、職員が図書 30 日、雑誌のバックナンバー7 日、開講期間中は学部学生が図書 14 日・大学院生が 28 日、雑誌のバックナンバー7 日、長期休暇中が図書・雑誌のバックナンバーとも長期休暇が終了するまでである。

図書館利用案内では、図書館ガイドや学生便覧を発行するとともに、新入生に対して、「基礎演習Ｉ」のクラスごとに 90 分間の利用指導の「ステップ１」（図書館紹介・検索法基礎実習）を実施している。また、「基礎演習Ｉ」のゼミ単位で行う「ステップ 2」（研究テーマに沿った文献探索法指導）に参加する学生も年々増えてきている。いずれもビデオ等を利用し、また実習を重視したプログラムとなっている。

障害をもつ学生へのサービスとして、図書館内に”vision scanner” を設置し、弱視の障害を持つ学生の資料利用に供している。

なお、学生からの図書購入希望は最大限取り入れるのみならず、学生の要望に迅速な対応を図っており、希望提出からおおよそ 1 週間で学生の手許に届けられるようになっている。また、この対応により、学生からの購入希望も大幅に増えた。

【点検・評価および長所と問題点】

みずほ台図書館にかかる今回の点検・評価に当たっても、平成 15 年度調査における私

立大学における同等ランク（D 区分：単科大学）の単科大学全体の平均と、みずほ台図書館を比較することによって、自館のいわば位置価を確認するとともに、それによって長所と問題点を把握することとした。(データは(図書・表 9)から(図書・表 16)を参照)

○　職員数　(図書・表 9)

私大 D 区分平均との比較では、専任職員数は平均であるが非専任職員の数は大きく下回る。したがって職員数合計においても平均を下回っている。また、図書館職員 1 人当りの学生数は、私大 D 区分平均の 3 倍近くに達している。今後、業務の合理化や職員の能力の向上を一層図ってゆくこととしても、なお職員増の改善がなされるべきと思われる。

○　施設　(図書・表 10)

みずほ台図書館全体の規模や面積はおおよそ適正であるといえる。

図書収容冊数は、平成 16 年度において、地下書庫を集密書架に替え、また、これまで 6 段だった 2 階書架を 7 段に変更することにより、書架収容力 134,000 冊を確保した。これ以外にも、学生のグループ閲覧室やガイダンススペース（利用者ガイダンス時の説明とビデオあるいはプロジェクターの投影が可能な小スペース）など、不足しているスペースもあり、それらの改善が望まれるところである。

○　蔵書冊数　(図書・表 11)

みずほ台図書館の蔵書数は、私大 D 区分平均を超えている。しかしながら、学生一人当たり図書の冊数で比較すると私大 D 区分平均を大きく下回る。これを同レベルまで引き上げることが課題である。

なお、平成 17 年度に行われた第 4 回学生生活実態調査の結果でも、みずほ台図書館の蔵書冊数、図書の種類に関する不満が多く寄せられている。

○　受け入れ資料数　(図書・表 12)

みずほ台図書館の受入図書冊数及び雑誌種類数とも、私大 D 区分平均を上回ってはいるが、学生数等を勘案して学習用の和雑誌及びコアジャーナルの受入種数増を図る必要があると思われる。

○　資料費　(図書・表 13)

みずほ台図書館の資料費は、総額的には私大 D 区分平均に近いところにあるが、雑誌費及び学生一人当たりの比較において私大 D 区分平均値の約 60%であり、資料費の増額の努力が望まれる。

○　開館状況　(図書・表 14)

開館日数、時間外開館時間数とも私大 D 区分平均を上回っており、開館状況に関しては十分なサービスが提供されているといえる。

みずほ台図書館においては、試験期に休日開館を行っており、好評を得ている。

○　館外貸出　(図書・表 15)

学生への貸出冊数は、私大 D 区分平均を超えているが、学生一人当たりで比較すると私大 D 区分平均に達していない。

なお、附属図書館全体の項でも述べたが、年々貸出冊数が減少の傾向にあり、資料を充実させＰＲに努める等、貸出冊数増の施策を考える必要がある。

○　相互協力　(図書・表 16)

相互貸借、文献複写ともに私大 D 区分平均を極端に下回っている。

この原因がどこにあるのか、原因を突き詰め、対応を講じて、図書館本来の機能を全うして、広く学外との連携を図ることが肝要である。

教育課程との関連では、教職課程の学生のため、中学・高校の教科書、指導書を揃え、教材研究・教育実習の資料としてよく使われている。さらに本学の特徴である留学やインターンシップに関する資料、英語力向上の為の英語副読本の整備等は、常に担当教員と協議しながら行っており、非常に多くの貸し出しが見られる。また、学生がキャリアを考える上で役にたつ、就職・資格に関する資料を、「キャリアセンター」との連携のもとに収集し、これも学生に好評である。

ここ数年書架スペースの確保が喫緊の課題であったが、平成 17 年度は 3 階に大型本専用書架を増設し、利用者の安全を図るうえでも良好になった。また、英語副読本が盛んに利用されていることも考慮し、3 階閲覧室に英語多読用読本を置く書架を増設した。

後期からは学生貸出用ノートパソコンの貸出管理を図書館で始めた。それに合わせて 1 階閲覧室の 1 人用閲覧机 5 席をノートパソコンが使える電源・蛍光灯付きに交換し、2 階閲覧室にノートパソコン専用の電源付閲覧机を 1 つ（4 席）設置した。

視聴覚閲覧室は、視聴覚媒体を使って語学学習をする学生等により、大変よく利用されている。ＤＶＤ／ＶＨＳプレーヤー10 台を購入し、ブースも 1 人用、2 人用各 1 つずつ増設した。監視カメラシステムを更新し、監視カメラ 4 台から 6 台に増設した。

図書は原則として全開架方式であり、館内での自由閲覧を可能にしている。開館時間と資料貸出の諸条件は、利用者の利便性を配慮したものになっている。

レファレンス・サービスは、平成 17 年度の実績が年間 366 件で、前年に比べて大幅に増えた。学部学生一人平均貸出冊数は 3.46 冊で、前年度に較べると減少した。近年は情報収集をインターネットに頼る傾向がよく見られ、図書を利用することの利点等についても伝えていくことが重要と思われる。利用指導に関しては、1 年生に対して 80%の実施率を見た。「ステップ 2」の参加者が年々増えてきており。特に外部データベースを使って情報収集をする学生が目に付くようになってきたことは、図書館の利用指導の重要性が徐々に学内で認知されてきており、今後とも充分な配慮をしていく。

みずほ館では、学生の立場で図書館の利用者としてのアドバイスをしてもらうことを目的として、学生アドバイザーを年度始めに募集し購入資料の選定を行っている。専用コーナーを設けて配架しているが、学生のみならず教職員にも多く貸し出されており、今後も一層充実させるよう配慮していく。

【将来の改善・改革に向けた方策】

蔵書冊数は、小規模私大の平均に達するよう努めるとともに、今後ともバランスのとれた収集を心がける。雑誌は、これまで種類数に算入していなかった他大学発行の研究紀要についても算入することとし、また、学科に関わるコアジャーナルを中心に、内国・外国雑誌ともに購読タイトルを増やす方針である。

書架スペースについては、増加の多い社会科学分野の書架スペースを拡充するため、図書館全体の資料の再配置を行って、社会科学分野の書架スペースについては多少改善された。今後多目的に使用できるスペースを確保することを検討している。

（２）学術情報へのアクセス

１）附属図書館（全体）

【現状の説明】

図書館業務のための電算機システムとして、千葉図書館及びみずほ台図書館とも汎用パッケージ型のシステムをそれぞれ導入し、学術コンテンツ・ポータル利用システムに参加して、業務の合理化と利用者サービスの充実に努めている。

利用者用の自館蔵書検索専用端末や情報検索用端末機を設置して、図書館ホームページを通じ、所蔵資料の検索や、図書館で契約している電子情報が利用し易いハード・ソフト両面の環境が整っている。

【点検・評価および長所と問題点】

図書館に特有な業務（目録データ入力や、蔵書管理等）への電算機の導入については、適切なシステムとなっている。将来は、最新のウエブ型図書館システムを両館で共有し、情報の共有と経費の節減につなげる検討を行うべきと思われる。

利用者用の情報検索用端末機については、利用状況に応じた整備(増加)が求められる。また､適切な外部オンラインデータベースの拡充に常に努力を払う必要があると思われる。

【将来の改善・改革に向けた方策】

増加しつつあるオンラインデータベースの拡充については、その動向を視野に入れながら、経費面での工夫を図りながら拡充していく必要がある。

その場合、千葉、みずほ台の両館における共同利用の拡大を図り、経費面でのメリットを図ることが望ましい。

２） 千葉図書館

【現状の説明】

図書館業務のための電算機システムとして、専用の「情報館 5.0」を導入している。

利用者用の自館蔵書検索専用端末 8 台、情報検索用端末機 8 台や視聴覚機器 5 台を設置しているが、情報検索用端末機は何時も満員の状態である。

情報提供サービスについては、千葉図書館ホームページを通じ、所蔵資料の検索や、図

書館で契約している電子情報(下記)が利用できる。また、館内設置の５台の視聴覚用ＰＣでは、スタンドアローンで CD・DVD－ROM・ビデオ視聴（TV 視聴可能）ができるようにしている。

１） データベース検索

新聞記事検索として「聞蔵（朝日新聞全文記事データベース)」、雑誌記事索引として「Magazine Plus」（国内）・「Academic Research Library」・「PsycINFO」・「Soc INDEX with Full Text」・「ERIC」・「Library, Information Science &Technology Abstracts」等約 5,000 タイトルが利用できるようになっている。

その他、冊子体の購読契約をしている外国雑誌 59 誌が、オンライン検索可能である。

２） コンテンツの表示

教育・研究に有効と思われる公開されているサイトを、ホームページ上に「リンク集」として提供して、適宜更新している。

【点検・評価および長所と問題点】

図書館に特有な業務（目録データ入力や、蔵書管理等）への電算機の導入については、現状に見合った適切なものといえる。

利用者用の情報検索用端末機については､利用希望が多く何時も満員の状態であるので、施設が狭隘ななかで、スペースの問題が解決すれば増設の実現を行うべきと思われる。

【将来の改善・改革に向けた方策】

電子ジャーナルについては、大学図書館実態調査結果報告（文科省）によって明らかなように、この 5･6 年間を比較してみると、国公私全大学平均で約 100 倍の増加となっており、その購読が加速度的に進んでいる。

総合福祉学部でも、更に電子ジャーナルの購読拡充希望が多く予算的に難渋している。

一方、冊子体の外国雑誌購読料高騰に難儀しており、雑誌費全体の在り方の検討が必要となっている。

このため、毎年電子ジャーナル（全文の読めるタイトルのみ）と重複する冊子体の外国雑誌の見直しを行っているが、今後も引き続き見直しを行いつつ、電子ジャーナル予算の独立経常費化・拡充を図るべく関係方面に働きかける必要がある。

３）みずほ台図書館

【現状の説明】

図書館業務のための電算機システムとして、専用の「情報館 5.0」を導入しており、資料の貸出・予約状況はリアルタイムで知ることができる。また、インターネット上では前日終業時の状況を知ることができる。利用者用の自館蔵書検索専用端末 8 台、情報検索用端末機 10 台を設置している。

1） データベース検索

現在契約している外部データベースは、国内図書と国内雑誌記事の総合的なデータベー

スである「BOOK PLUS」、「MAGAZINE PLUS」、国立情報学研究所の「情報検索」、「電子図書館サービス」、朝日新聞、日本経済新聞を始めとする「国内新聞８紙の記事検索」、一般雑誌記事のデータベースである「大宅壮一文庫雑誌記事検索」等であり、利用者の学術情報収集の一助としている。これらの外部データベースは、ＩＰ認証によるサイト契約としたので、図書館のみならず、キャンパス内であればどのネットワークパソコンからでも検索できる。

【点検・評価および長所と問題点】

外部データベースの利用については、利用指導の効果もあってよく利用されている。特に新聞の記事検索について好評である。

ホームページでは、図書・雑誌・新聞情報の提供に関するページを作成し、また、リンク集の提供によって基本的な学術情報利用の筋道を示している。

【将来の改善・改革に向けた方策】

学術情報の提供システムは、インターネットを使う各種データベースやCD-ROMなど徐々に整備されつつある。更に増加しつつあるオンラインのデータベースについて、オンラインジャーナルの動向を視野に入れながら検討していく。

また、学内外の情報資源を統合して検索させ、学生にとって必要な情報を選択的に提供する学術情報ポータルを整備し、学内外に積極的に提供してゆく予定である。